

「ブックスタートがもたらすもの」 に関する研究レポート

NPO ブックスタート 編著

編集協力 佐々木宏子 秋田喜代美
第1部考察 佐々木宏子

はじめに

ブックスタートは、すべての赤ちゃんのまわりで楽しくあたたかいひとときが持たれることを願い、一人ひとりの赤ちゃんに、絵本をひらく楽しい体験と共に、絵本を手渡す活動である。市区町村自治体の事業として主に自治体の財源で取り組まれ、2014年6月末現在、全国1741の市区町村のうち881自治体（50.6%）が実施している（NPOブックスタート調べ）。活動を行う自治体に生まれたすべての赤ちゃんが対象となる乳幼児健康診査（以下、健診または乳幼児健診）などの機会¹に、図書館・保健センター・子育て支援課・市民ボランティアなどが連携して行う。

ブックスタートは、1992年に“Share books with your baby!”のキャッチフレーズとともに、英国で始まった。絵本を読む（read books）のではなく、赤ちゃんに絵本をひらく楽しいひとときを分かち合う（share books）……。そのきっかけを、すべての赤ちゃんのもとへ届けようと始まった活動は、日本では2000年の「子ども読書年」を機に紹介され、その後、世界各地へと広がっている。²また、2001年4月に発足したNPOブックスタートは、日本における推進団体として活動の理念を正確に伝え、各地域で充実した活動を継続できるよう、様々な事業を行っている。

このたび私たちNPOブックスタートがこの『「ブックスタートがもたらすもの」に関する研究レポート』を発行するのは、「ブックスタートにはどのような効果があるのか」という問いに対するNPOブックスタートとしての答えを用意したいと考えたからである。市区町村自治体の公的事业として、主に税金を使って実施される事業であるブックスタートにとって、これは問われ続ける質問でもある。

あるものの「効果」は、その「目的」と対になって語られることがあり、「子どもへの読みきかせ」という文脈においては、「想像力が豊かになる」「語彙が豊

富になる」「知能が上がる」といった「効果」を分かりやすい数値等で示すことが期待されることも多い。しかしブックスタートはそれらを目的とした活動ではないため、私たちはこれまで活動の目的と、子どもへの読みきかせの教育的な側面とを結びつけることはしてこなかった。そして本来ブックスタートが目指したshare booksの時間の中で生まれる、親子のふれあいや気持ちの通い合い、喜びや楽しさなどに注目し、それらに対する人々の共感を集めながら活動を推進してきた。

また、ブックスタートは目に見える分かりやすい効果を調査等ではっきりと示しづらい活動でもある。赤ちゃんが育つ環境は様々な要素が複雑に影響しあっており、“ブックスタートによって”「親子の絆が深まった」「赤ちゃんが幸せに成長した」ということを証明することは非常に難しい。また実施自治体では、ブックスタートの開始と同時に、地域の中で様々な読書推進や子育て支援の取り組みを行うことも多く、何か「効果」のようなものが現われたとしても、それが“ブックスタートだけによって”もたらされたとは言い切れない場合も多い。そもそも絵本をいっしょに楽しむことの意味や、そこで生まれる幸せな時間にどのような意味があるのかを説明することは難しく、人の心に起こることを数値だけで測り示すこともできないだろうと考えてきた。このような理由から、NPOブックスタートでは、2000年に行った東京都杉並区における試験実施以降、ブックスタートの効果等に関する調査は行わず、実施地域への支援に注力してきた。

こうした前提を踏まえた上で、本研究レポートでは「ブックスタートがもたらすもの」について考えたい。第1部と第2部ではその対象を「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」とし、第3部では「活動を実施する市区町村自治体や関係者」とする。

第1部と第2部では、「絵本のひととき」が「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」にもたらすものが、“ブックスタートによって”より多くの家庭に届いている可能性について、2段階の分析によって検討した。

¹ 実施自治体のうち、ブックスタートを集団の乳幼児健診で行っているのは75%。「集団の乳幼児健診を実施していない」等の理由から、新生児訪問や育児相談等の母子保健事業で行っているのは18%、子育て支援センターや図書館等でブックスタートのための日を設定するなどして行っているのは7%である（2014年2月時点）。

² ブックスタートについては、204ページを参照のこと



目次

まず第1部では、赤ちゃん絵本をひらく時間の具体的な事例を分析し、「絵本のひととき」とはどのような時間なのか、その時間が「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」に何をもたらしているのかを明らかにする。次に第2部で、ブックスタートの対象となった保護者へのアンケート調査を分析し、「ブックスタート」が各家庭で赤ちゃん「絵本のひととき」を持つ具体的なきっかけになっているかを検討する。つまり、ブックスタートという形を持った活動が、家庭で「絵本のひととき」を持つきっかけとして機能していることが明らかになれば、活動を実施することによって、より多くの家庭で「絵本のひととき」がもたらす成果が享受されていると推測できるのではないかと考えた。

またブックスタートは地域で多くの人に関わり、地域に根ざした活動として展開されている。そこで第3部では、各地の実施状況の詳細や関係者の発言等を分析し、ブックスタートが「活動を実施する市区町村自治体や関係者」にもたらすものについて明らかにしたい。

本研究レポートの作成にあたっては、佐々木宏子 鳴門教育大学名誉教授と、秋田喜代美 東京大学大学院教授に専門的な見地からの助言をいただき、編集の協力をお願いした。また佐々木氏には、第1部で明らかにしたことに対する考察も加えていただいた。

本文では、赤ちゃんや子どもといっしょに絵本を読む行為を「読みきかせ」と記した。実際に赤ちゃんや子どもと絵本をひらく時には、大人が一方向的に絵本を「読んできかせる」というよりは、双方の言語的／非言語的なやりとりが中心となるため、近年では例えば「読みあい」という言葉が使用されることもある。しかし今回は、「子どもといっしょに本をひらく」行為を指す言葉として、より一般的に普及しており、より多くの人が同じイメージを抱きやすいと判断し、「読みきかせ」という言葉を使用したことをお断りする。

はじめに… 2

第1部 絵本のひとときは、「赤ちゃん」「保護者」「親子の関係性」に何をもたらすか… 9

(1) 赤ちゃんとの関係を育む過程を豊かなものに

1. 小さな赤ちゃん絵本をひらくということ… 14
2. 「通じた！分かってたんだ！」の幸せ… 18
3. 絵本の世界を共有したものだけに分かること… 20
4. 絵本の世界と現実の世界がつながる… 24
5. 子どもの個性に気づく… 26

(2) 絵本を介して生まれる喜び

1. やりとりが生み出す楽しさ… 30
2. 父親であることの喜び… 31
3. 子どもと読み手の成長を見つける… 33
4. 子育ての喜びをともに分かち合う… 35

(3) 子育ての助けとなるもの

1. 親も子ども心を落ち着かせる道具として… 37
2. 自分自身との対話… 40

(4) 受け継がれる絵本のひととき… 42

(5) いっしょに生きていた証し… 44

まとめ… 47

第1部 資料

参考にしたウェブサイト… 49

考察の参考文献… 49

第2部 ブックスタートは、 赤ちゃんと絵本をひらくきっかけになっているか … 51

調査概要

調査協力者／方法／時期／質問項目／集計／自治体データ… 53

結果と分析

(1) 「赤ちゃんと絵本のひととき」についての傾向

1. 家庭での絵本の読みきかせの有無と頻度… 57
2. 読みきかせをしている人… 59

(2) ブックスタートが絵本のひとときを持つきっかけになったか

1. 「ブックスタート実施月齢」と「家庭での読みきかせ開始月齢」に
関連がみられる… 62
2. ブックスタートで手渡された絵本が活用された… 67

(3) ブックスタートでの体験は、保護者が「絵本のひととき」に対して、 どのような認識を持つことにつながったか… 70

(4) ブックスタートがより多くの家庭で

「絵本のひととき」を持つきっかけとなるために考慮できること

1. 家庭での絵本の読みきかせの状況… 73
2. 「読みきかせをする人」としての父親の存在… 78
3. ブックスタートでの体験… 78
4. ブックスタートをより具体的なきっかけとするために考慮すべき点… 81

まとめ… 84

第3部 ブックスタートは、 市区町村自治体や関係者に何をもたらすか … 87

(1) 地域の子育て環境

1. 組織と人の連携を基盤とした子育て支援推進の枠組み

- ① 複数の行政機関の連携… 91
- ② 公と民の連携… 93
- ③ 連携の上に成り立つネットワーク… 94

2. 保護者と地域の人々のつながり

- ① 保護者と行政職員… 96
- ② 保護者とボランティア… 97
- ③ 保護者と保護者… 99

3. 公共施設の設備と子育て支援活動の充実

- ① 図書館… 100
- ② 保健センター… 103
- ③ 子育て支援センター… 104
- ④ 保育園・幼稚園… 105

4. 子育てしやすい地域への愛着… 106

(2) 母子保健事業

1. 健診の様子… 109

2. 対象者の個別の状況に合わせた対応

- ① 具体的なアドバイス… 111
- ② 「支援を必要としている人」に気づく… 112
- ③ 日本語以外の母語を話す方、障がいのある方への対応… 113
- ④ 参加しなかった方（健診未受診者）への対応… 114

- 3. 健診受診率や満足度の向上… 115
- 4. ブックスタート後の健診内容の充実… 116

(3) 活動に携わる人々

1. 行政職員

- ① 業務の意義を再発見する… 117
- ② 業務に役立つ具体的な学びを得る… 118

2. 市民ボランティア

- ① 親子との関わりから得るもの… 120
- ② 地域の人々との関わりから得るもの… 120

まとめ… 122

第3部 資料

- NPO ブックスタート発行物… 124
- ブックスタートと行政の計画… 125

おわりに… 126

巻末資料

- 第2部アンケート調査結果（数表／自由記述）… 132
- ブックスタートについて… 204